社外取締役メッセージ



独立社外取締役
指名・報酬諮問委員会委員長

伊奈　功一

トヨタ自動車株式会社の専務取締役生産企画本部長、同製造本部長、ダイハツ工業株式会社の代表取締役社長を経て、2019年より当社取締役。

独自性を磨き、成長への突破口を切り拓く

三社電機グループは現在、非常に厳しい経営環境にあります。2024年度にスタートした中期経営計画「CF26」では、現時点で計画どおりの成果を十分に上げるには至っておらず、半導体事業も2期連続で赤字となっています。

一方で、AIの急速な普及に伴い、世界的に電力需要が拡大する中、山内社長が述べているように、この変化は当社グループにとって大きなビジネスチャンスでもあります。この機会を確実に捉えるためには、「さすが三社電機だ」と評価される独自性の高い製品を生み出すことが重要です。そのためには、経営資源を重点分野に集中させる、いわば「一点突破」の発想で、顧客から高い注目を集める製品を一つでも創出し、それを競合他社に先駆けて市場へ投入することが肝要だと考えています。

当社では、ブリーフィング会議を計画的に実施しています。この場を活用し、重点製品の開発状況や課題、開発プロセスなどについて自由闊達な議論を重ねることで、よりスピード感のある意思決定と事業推進につなげていきたいと考えています。社長をはじめ経営陣がこの取り組みを強く推進しており、私も社外取締役として、その実現に少しでも貢献できるよう努めてまいります。

また、指名・報酬諮問委員会には、公平性、独立性、そして機密性が強く求められます。委員長として、とりわけ公平・公正な審議を何より重視し、努力や成果が適切に評価される仕組みづくりを通じて、一人ひとりの挑戦意欲と組織全体の活性化につながる委員会運営に努めてまいります。



独立社外取締役
指名・報酬諮問委員会委員

梨岡　英理子

公認会計士として豊富な財務・会計知識とサステナビリティ分野への深い見識を有し、2020年より当社社外監査役を務め、2024年に社外取締役へ就任。

長期的な企業価値向上に向けて、サステナビリティ経営を深化する

三社電機グループは、パワーエレクトロニクス技術を核とした事業を通じて社会課題の解決に貢献する企業です。この強みを中長期的な企業価値向上へ確実につなげるためには、サステナビリティ経営の一層の深化が不可欠です。特に、パーパスと中期経営計画を統合し、技術開発・人材戦略・財務戦略を一体で捉える「長期の価値創造ストーリー」を取締役会として明確に描き続けることが重要だと考えています。

人的資本の観点では、技術系人材の獲得競争が激化する中、技術を戦略として語れる経営視点を兼ね備えた人材の育成が、企業価値の源泉になると考えます。また、時短勤務や在宅勤務など柔軟な働き方には、AIを活用した業務プロセスの自動化（DX）の推進とマネジメント改革が不可欠です。人的資本投資の質を高め、生産性向上につなげる取り組みを継続していくことが重要です。

ガバナンス面では、非財務リスクを財務リスクと同列に扱う統合的なリスク管理が重要です。サプライチェーン、人権、気候変動などの領域は、事業戦略と密接に結びついており、取締役会が継続的にモニタリングすべきテーマです。また、製品使用時のCO_2削減効果は「顧客価値」であり、事業を通じた社会価値創造として定量的に示すことは、企業の競争力向上につながると考えます。

社外取締役として、長期的な企業価値向上の観点から、技術・人材・ガバナンスの三領域を横断する課題を経営陣に提起し、建設的な議論を促すことで、持続的な成長につながる経営を後押ししてまいります。